

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： プロセスに強い MI の創出と複合機能材料での実践
2. 研究代表者： 昌山 歆（東京科学大学 物質理工学院 材料系 助教）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題では、全固体電解質の創出を例題に、抽象度の高い実験情報などの研究情報を電子化し、自動解析するシステムの構築を目指している。フェーズ1では、材料の製法やプロセス情報を材料特性とともに詳細に記録・分析できるグラフ構造を用いた電子実験ノートを確立させるなど、AIを用いた材料開発技術によりさまざまな展開を進めており、世界トップレベルのデータセットを実証している点は高く評価できる。フェーズ2では、化学用大規模言語モデルをマルチモーダル学習も含めて更に開発し、自動実験装置、自律研究エージェントの構築を行う計画である。実験現場での複雑なプロセスに適合した材料インフォマティックスによって日本の優位性を打ち立てるなどを期待する。

以上